

2009年10月2日
郵便局株式会社 近畿支社

オリジナルフレーム切手『亀岡祭』の販売

郵便局株式会社 近畿支社（中央区北浜東3-9、支社長 日高信行）は、下記のオリジナルフレーム切手を販売します。

このオリジナルフレーム切手は、亀岡祭を題材としたもので、京都府亀岡市内の郵便局（簡易郵便局を除きます）で限定販売するものです。

記

1 切手の概要

名称	亀岡祭
販売期間	2009年10月20日(火)～2010年10月19日(火)
販売部数	1,000部
販売郵便局	京都府亀岡市内の全郵便局（15局） 簡易郵便局を除きます。
シート構成	1シート 80円切手×10枚
販売単位	シート単位で販売します。
販売価格	1シート 1,200円

2 切手デザイン等 別添のとおり

3 その他

本フレーム切手は、通信販売は行いませんので、販売郵便局でお買い求めください。

また亀岡祭は、3日間行われ、10月23日（金）宵々山、10月24日（土）宵宮、10月25日（日）本祭となっています。

通信記者クラブ・亀岡市政記者クラブ同時発表

以上

【報道関係の方のお問い合わせ先】

郵便局株式会社近畿支社企画部（広報担当）
電話：（直通）06-6944-5420

【お客さまのお問い合わせ先】

郵便局株式会社近畿支社営業本部（郵便・物販担当）
電話：（直通）06-6944-8123

亀岡祭



亀岡祭の起源は、室町時代に始まったと言われていますが、天正年間（一五七三～一五九二）の明智光秀の丹波攻略など戦国時代の混乱の中で一時廃れましたが、江戸時代になって歴代藩主の庇護を受けて町衆の力により徐々に復興しました。

延宝九年（一六八二）に著された「矢田社之祭法」などによると、旧暦の九月一日から三十一日の一ヶ月にわたるもので、山鉾も祇園祭と同様に町内の巡行や籤取り・籤改めなどが行われていたようです。

また、江戸時代の中頃になると、それまで昇き山であったものから曳き山に改修されるなど、町衆が日常生活の中で儉約に努め経費を捻出したことが「引山記」などに記されています。

また、山鉾を飾っている置物類の中には、中国やペルシャなどからもたらされたものもあり、有形・無形の民俗文化財として郷土の先人たちが残してくれた貴重な文化遺産です。

現在十一基の山鉾があり、十月二十三日（宵々山）・二十四日（宵宮）・二十五日（本祭）の祭には賑やかな囃子により祭を盛り上げています。

亀岡祭山鉾連合会



NIPPON 80



NIPPON 80



NIPPON 80



NIPPON 80



NIPPON 80



NIPPON 80



NIPPON 80



NIPPON 80



NIPPON 80



NIPPON 80

- 切手と写真部分を郵便物に貼って、ご利用いただけます。
写真部分だけでは、切手としてご利用いただけません。
- 郵便料金納付のためにこの切手をご利用の場合、写真部分に消印がかかることがあります。

© 株式会社日本郵便

